

ブラジル 年次調査でカンキツグリーニング病の拡大が判明

[FreshFruitPortal](#) 2024年9月12日

カンキツグリーニング病(黄龍病、HLB)の発生率に関する柑橘類栽培防衛財団(Fundecitrus)の最新の年次調査によると、サンパウロ州とミナスジェライス州南西部(三角地帯)の柑橘類主産地(シトラスベルト)全体として、この病害の発生率は2023年の38%から2024年には44%に上昇した。これは、7年連続の増加となる。

同財団によると、シトラスベルトには合計2億374万本のオレンジの木があり、約9,036万本が発症している。

シトラスベルトの12の地域のうち、5つの地域は発生率が60%を超え、2地域は発生率が40~50%、3地域は発生率が15~25%で、発生率が5%未満の地域は2つだけである。

報告書によると、この増加は、この病害を媒介する昆虫の個体数が2023年にこれまでで最も多くなり、トラップ当たりの平均捕獲数が2022年と比較して54%増加したことに起因する可能性がある。

発生率は増加したものの、今年の6.29ポイントの上昇は、2022年から2023年にかけての13.66ポイントの上昇に比べて大幅に小さい。2023年から2024年にかけての病害の拡大の鈍化に関連する可能性のある要因の1つは、シトラスベルト全体で通常よりも気温が高かったことである。

2023年にこの病害の発生率が低かった北部と北西部では、最高気温が35℃を超える日がより多く記録された。同財団の研究者であるヘナート・バッサネッジ氏は、これが新たな発生を押しとどめた可能性があると考えている。

発生を鈍化させた可能性のあるその他の要因としては、生産者が若い果樹園と成熟した果樹園の両方で同じ厳格さで疾病管理手法(作用機序の異なる殺虫剤のローテーションでの使用、散布間隔の短縮、散布技術の向上等)を適用したことが挙げられる。

また、発生率の低い地域での発症した果樹の除去も引き続き行われ、ひどく影響を受けた果樹園の廃止が増加した。

さらに、新しい果樹園の立地を選択する際に病害圧力が低い場所を探すようにしたことは、シトラスベルト内の発生率の低下に有利に働いた。

2024年に最も発生率が高かったのは、引き続きリメイラ(79.38%)、プロタス(77.06%)、ポルトフェレイラ(71.77%)、ドゥアルティーナ(63.93%)、アヴァレ(63.41%)の各地域である。発生率が最も増加した地域はベベドウロ(39.7%)であった。アルティノポリス地域は発生率が高い(42.93%)グループ内に留まった。

マタオン(18.91%)、サンホセドリオプレト(17.57%)及びイタペチニンガ(15.19%)の各地域は、中程度にとどまっている。

ヴォトゥポランガ(3.14%)とトリアングロミネイロ(0.11%)は、引き続き発生率が最も低い。ただし、トリアングロミネイロでは発生率の低下が見られた一方、ヴォトゥポランガ地域では前年と比較して発生率の大幅な増加が観察された。